

河鍋暁斎記念美術館で今月個展を開催

輝いています

ひと

きたざわ 北澤わかさん

地域に文化芸術の輪を広げたい



特別展に出展する作品を仕上げる北澤さん

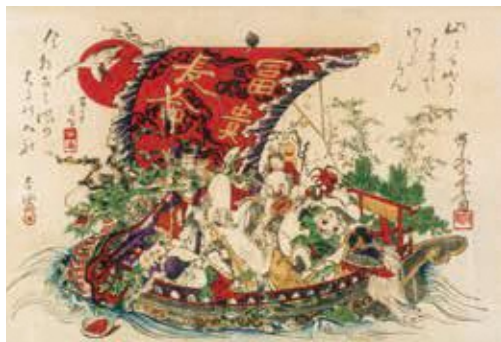
「油 絵は完成までの期間が長いので、いろいろ思いを巡らせ、対象とじっくり向き合うことができます」と語るのは、絵画サークル「画友会」会長の北澤わかさん(83歳・錦町2丁目)です。活動を通じて油絵の魅力を広めています。絵を鑑賞するのが好きだった北澤さんが油絵を始めたのは40歳のときです。興味本位で中央公民館の講座に参加したところ、独特の深みで多様な表現が楽しめる上、何度も塗り重ねられ、仕事や家事の合間に少しずつ進められることから、たちまちそのとりこに。ライフワークとして今後とも続けていこうと、受講生たちと画友会を立ち上げました。

「花だけでなく、落ちた葉の一枚一枚をいとおしく感じます」と、その目で直接見たものをありのままに捉えた作風の北澤さんの絵は、画友会の仲間からも「あらゆる画題を優しいまなざしを通じて表現しており、誰が描いた絵かすぐ分かる」と、評判です。そうしたなか、この度、蔵市文化協会の智内兄助会長から推薦を受け、河鍋暁斎記念美術館で特別展を開催する運びとなりました。当初は畏れ多く断ろうとしたものの、「私のような一般の主婦の作品が展示されることで、皆さんの励みになれば」と、出展を決意しました。特別展「北澤わか―大地の譜―」は今月1日から25日まで開催されます(下囲み)。同展では、ケニアを訪問した際に心を揺さぶられた雄大な自然の情景を100号(約縦162センチ、横130センチ)の大きさで描いた作品や河鍋暁斎をオマージュした板絵の作品など、約20点を展示します。「今の私があるのは好奇心の赴くままに行動してきたからですよ」と、ほほえむ北澤さん。これからも、さまざまな出会いや経験を糧に自身の人生をも豊かに彩っていきます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

—No.45—



暁斎筆「七福神宝船 富貴長命」大判錦絵

色鮮やかな「富貴長命」の帆を張った宝船の錦絵です。句には「正々も眠りさましてわらふらん」今朝ふく風のはるの入船」と書かれています。江戸時代、正月になると「宝船売り」が宝船の絵を売り歩きました。庶民は正月二日の夜に枕の下にその絵を敷いて

その年の吉凶を夢で占い、悪夢を見たら絵を水に流して厄を祓ったのです。七福神が全員乗り込んだこの絵は、いかにも良い夢が見られそうな、おめでたい作品です。

Yosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ 暁斎
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 2月25日(火)まで

「えとの始めは子年から おめでたい神仏画」展 同時開催
「暁斎プラスワンシリーズ33 北澤わか―大地の譜―」展

開館 = 午前10時～午後4時
休館 = 木曜日・毎月26日～末日
ところ = 南町 4-36-4
入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円
65歳以上500円 小・中学生300円

※65歳以上の方は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください。(20人以上の団体は要予約)

詳細 = 同館 ☎441-9780

